

介護ロボット等を活用した「先進的介護」の実証事業について (第2回 介護ロボット特区ワーキンググループ会議)

1 日 時 平成28年9月28日(水) 13:30~15:00

2 場 所 ホテルクラウンパレス小倉 3階 ダイヤモンドホール

3 内 容

- (1) 作業分析の進捗状況 資料1
- (2) 施設における課題の取り組みについて
 - ①好日苑大里の郷における施設課題の取り組みについて 資料2-1
 - ②介護職員の負担軽減
～記録の簡素化(システムの導入)と情報共有を目指して～ 資料2-2
- (3) 実証で使用するロボット等について 資料3
- (4) 介護ロボット利用に関する調査について 資料4

4 主な意見

【作業分析について】

- 介護職員が入居者を見守りしているところと、介護職員が入居者と関わらない個人的な行動（自身の休憩・トイレ・食事など）とは、区別してデータを整理して欲しい。
- 介護職員の仕事は、入浴や食事、トイレなど、入居者が生活するために必須の介助と、入居者の活動を豊かにするリクリエーションなどの活動に分類されるが、今後はこれらの活動を増やしていくべき。
- 作業分析では、介護ロボットの介入が介護作業のどこで必要かが客観的にわかるが、入居者の要介護度によって状況が変わるので、調査対象者の要介護度を明確にしておく必要がある。

【介護施設における課題や取り組み】

- 介護現場では、入居者とコミュニケーションを取る時間がほとんど取れないほど多忙。見直していかないと介護の担い手がなくなる。そのため、記録の簡素化などの改善は必要。
- 介護職員は、自分達が長く働けるためにも、頭の切り替えが必要。経験や勘などに頼るだけでなく、マニュアルなどに則った介護ができるように変わる必要がある。

【実証で使用するロボット等について】

- 今回は、まずは介護ロボットを使っただけということの方が大事。
- 作業分析した結果、入居者の介助の中で体位変換を行うことが多いことが見えてきた。今後、介護ロボットがサポートするところがどれくらいあるかを検討する必要がある。
- 介護ロボットの導入が考えられる部分としては、介護職員が入居者と直接関わってない作業が考えられる。その部分を介護ロボットが担えば、入居者に関わる時間を延ばせる。
- 介護職員が長く働きたいと思える施設になるためにも、耐用年数や価格なども含めて、ロボットの開発を期待する。

【介護ロボット導入後の評価について】

- 介護ロボットを使用してみて、介護職員の負担軽減にどれだけ寄与したかに着目して評価することが大切と考える。
- 介護施設は、介護ロボットが欲しいわけではなく、介護ロボットが提供するサービスに期待している。介護ロボットを使う目的が達成されたかどうかを評価する必要がある。
- 介護職員、あるいは利用者の点から、何が望まれているのかを評価しないと、単に介護ロボットの評価に終わってしまう。利用者の自立支援の観点も評価には必要である。
- 介護職員のスキルのことも評価に大きく影響してくる。
- 評価で有効性を証明するのは非常に大変な作業である。
- 介護施設は個室化の傾向のため、入居者が一人になる時間が多い。介護ロボットを導入することで介護職員が入所者の傍にいる時間がどれくらいか増えたかを評価して欲しい。

介護ロボット特区ワーキンググループ会議 出席者名簿

【構成員】

(五十音順・敬称略)

氏 名	所属・役職	専門分野
いずみ ひろ ゆき 泉 博 之	産業医科大学 産業生態科学研究所 准教授	人間工学
いとう なお こ 伊 藤 直 子	西南女学院大学 保健福祉学部 教授	看護
いわ い しげる 岩 井 茂	(一社)日本福祉用具供給協会 福岡県ブロック長	福祉用具
しば た とも ひろ 柴 田 智 広	九州工業大学 大学院生命体工学研究科 教授	ロボット研究
そが ま み 曾 我 満 美	(公社)北九州高齢者福祉事業協会 副会長	高齢者福祉施設
たしろ くみえ 田 代 久美枝	認知症・草の根ネットワーク 理事	利用者団体
はし もと たかし 橋 元 隆	九州栄養福祉大学 小倉南キャンパス副学長	リハビリ
はちすか けん じ 蜂須賀 研 二	九州労災病院 門司メディカルセンター 院長	リハビリ
ふく しま まりこ 福 嶋 方里子	(公社)福岡県介護福祉士会 理事	介護
やま もと のり あき 山 本 憲 昭	北九州市立介護実習・普及センター 所長	福祉用具

【オブザーバー】

なか むら じゅん こ 中 村 順 子	(社福)孝徳会 サポートセンター門司 施設長	高齢者福祉施設
わた なべ だい すけ 渡 辺 大 祐	(社福)春秋会 好日苑大里の郷 施設長	高齢者福祉施設

作業分析の進捗状況について

産業医科大学
人間工学研究室
泉 博之

作業分析の実施状況

- 7月23日（土） 入居者・家族向け説明会
- 7月25日、26日 施設職員との意見交換（作業内容確認）
- 8月4日（木） 身体負担計測器の説明&装着会
- 8月5日（金） 施設職員との意見交換（調査票確認）
- 8月20日（土） 作業観察の予行演習
- 8月29日（月）～9月2日（金）、12日（月） 作業観察（6日間）
好日苑大里の郷 ※9/1は夜間も
- 9月4日（日）～9月8日（木）、23日（金） 作業観察（6日間）
サポートセンター門司 ※9/6は夜間も

作業分析 ～作業観察～

8月20日 作業観察の予行演習

作業観察の予行演習により
観察における課題等を確認し
本観察までに対応する。



作業観察（本観察）

8月29日～9月2日、12日

好日苑大里の郷

9月 4日～9月8日、23日

サポートセンター門司

作業観察の様子
(観察ツール:タブレットで記録)



課題について打ち合わせ

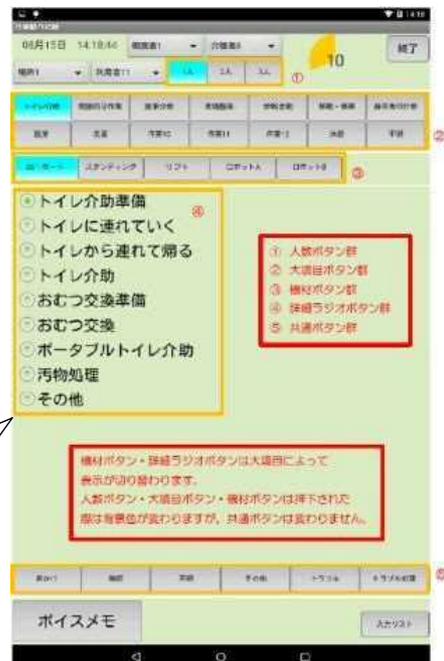
作業分析 ～作業観察ツール～

作業観察時、介護にかかる時間を記録するAndroidアプリ
観察時に、介護職員の動作に対応する要素項目をタップする
ことで時間が記録されていく。



記録者、
観察対象者等を
プルダウン内
から選択

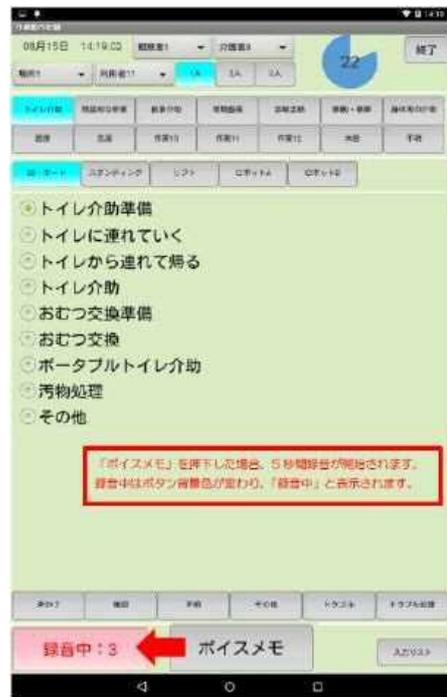
要素項目を
タップすると、
時刻が記録
される



作業分析 ～作業観察ツール～



30秒毎に
作業姿勢評価手法
のOWASコード
を入力



ボイスメモ機能
付き

4

作業分析 ～作業観察で使用する身体負担計測器～

目的	機器	内容	画像
位置情報の記録	ビーコンタグ、iPod touch	施設にタグ(発信機)を設置し、介護職員が受信機を所持することで、介護職員の位置や動線を記録	
体幹姿勢の計測	体幹姿勢記録システム	腰部に巻いて体幹姿勢を計測し、介護する姿勢から腰部かかっている負担を推定	—
足底圧の計測	足底圧計測システム	感圧センサ付ソールを靴の中に入れ、発信機をふくらはぎに装着し、足底圧を計測することで、足の踏ん張り具合から、身体の負担を推定	
活動量の計測	万歩計	腰部に着け、移動量(歩行数および身体の動きの程度)を計測し、身体の負担を推定	
心拍数等の計測	myBeat	胸部に貼付け、心拍数、体表温、3軸加速度を測定し、身体の負担を推定	

5

作業観察の予行演習 (8/20)

【サポートセンター門司】



作業観察の予行演習 (8/20)

【好日苑大里の郷】



作業観察 (9/5) 【サポートセンター門司】



8

作業観察 (8/31) 【好日苑大里の郷】



5

9

今後の取り組み

- 10月 作業分析データの整理（概要把握）
- 11月上旬 調査研究チーム内での検討会
- 11月下旬 介護職員との意見交換
- 11月～1月 作業分析データの解析
- 2月 まとめ

好日苑大里の郷における 施設課題の取組みについて

平成28年 9月28日
社会福祉法人 春秋会
好日苑大里の郷
施設長 渡辺大祐

施設における課題

- ① 真の自立支援へ
～ 過剰介護をやめる ～
- ② 職員の腰痛改善
～ 抱えない介護をめざす ～

① なぜ、利用者の自立を促すのか？

介護保険法(目的)

第一条 この法律は、加齢に伴って生ずる心身の変化に起因する疾病等により要介護状態となり、入浴、排せつ、食事等の介護、機能訓練並びに看護及び療養上の管理その他の医療を要する者等について、これらの者が尊厳を保持し、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要な保健医療サービス及び福祉サービスに係る給付を行うため、国民の共同連帯の理念に基づき介護保険制度を設け、その行う保険給付等に関して必要な事項を定め、もって国民の保健医療の向上及び福祉の増進を図ることを目的とする。

2

自立を促すには、

- ① 利用者の状態を正確に把握する
⇒ 正確なアセスメント
- ② 目標を設定し、自立した生活をめざす
⇒ ケアプランへ反映
- ③ 職員の意識改革
⇒ 利用者の出来ることを奪わない
自立した生活とは何かを理解する

2

3

真の自立支援とは、

過剰介護をやめること

- 介護者の負担軽減
- QOLが高まる

② 職員の腰痛改善

腰痛を改善するためには、

ロボット化(リフトの活用)
抱えない介護をめざす

現状分析(アンケート結果)

対象者:介護職員・看護職員・相談員

有効回答:102名のうち

違和感がある程度の腰痛 63名(61%)

痛みを感じる程度の腰痛 20名(19%)

全体の80%が腰痛を抱えている

平成26年9月実施

6

施設・法人としての対策

平成25年度 「ゆうらく(島根県)」視察

平成26年度 ノーリフト委員会の発足

- アンケートの実施
- ノーリフト規程の策定
- リフトの選定、決定
- 見積、予算化
- 研修の体系化

平成27年度 リフト導入

4

7

最初に

風呂場の改善から

取り組む

8



5

9



10



6

11



12



7

13

課題解決をめざす

利用者、職員から選ばれる施設をめざす

腰痛の改善を図り、よい職場環境を作る

ご清聴ありがとうございました

介護職員の負担軽減

～記録の簡素化（システムの導入）と
情報共有を目指して～

H28. 9. 28

社会福祉法人 孝徳会

サポートセンター門司 施設長 中村 順子

指定介護老人福祉施設の 人員、設備及び運営に関する基準

○第1条2

指定介護老人福祉施設は、施設サービス計画に基づき、可能な限り、居宅における生活への復帰を念頭に置いて、入浴、排せつ、食事等の介護、相談及び援助、社会生活上の便宜の供与その他の日常生活上の世話、機能訓練、健康管理及び療養上の世話を行うことにより、入所者がその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるようにすることを旨とするものでなければならない。

指定介護老人福祉施設の 人員、設備及び運営に関する基準

○第8条

2 指定介護老人福祉施設は、指定介護福祉サービスを提供した際には、提供した具体的なサービスの内容等を記録しなければならない。



様式や記録の範囲は定められていない。

生活支援の内容をすべて文章で記録しようとする
と、膨大な量と時間を費やすことになる。

2

記録の目的

1 情報共有

ご入居者の心身の状態や、通院・外出などの重要な事柄を関わる全職種

(介護、看護、ケアマネジャー・相談員、事務部門、栄養士・厨房、リハビリ等)が共有するための記録



業務に情報共有は不可欠なため、負担感はなく、マニュアル化されやすい。

3

2

記録の目的

(1) 情報共有の重要性

ご入居者の容態の変化やお薬や食態の変更など、重要なことが漏れることのないよう、「スマイルケア（独自システム）」で共有している。



各ユニット・看護・栄養・ケアマネジャー・相談員・事務などそれぞれのパソコンで入力したり確認ができる。

スマイルケア（データベース型管理システム）

【特徴】

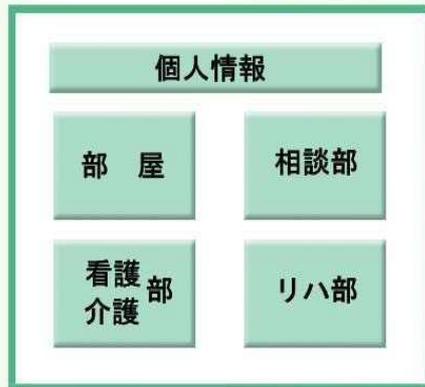
- 全ての帳票が1つのデータベースで管理できる。
- 誰でも、どこからでも閲覧、入力ができる
(パスワード管理)
- 紙がいらない(経費節減)
- 帳票を管理しやすい
- 文字を打てる程度のスキルで使える。



スマイルケア

Entrance personal management system Ver2807

平成28年9月8日(木)



6

事務・ケアマネ・栄養

- ・ プロフィール
- ・ 顧客管理（病院、施設、）
- ・ ケアプランスケジュール管理
- ・ ケアプラン作成
- ・ アセスメント作成
- ・ ケアプランのモニタリング作成
- ・ ケアプラン実施状況
- ・ インシデント・事故管理（分析、報告）
- ・ 入所者個人記録
- ・ 栄養アセスメント（盛り付け写真）

リハビリ部門

- ・ 機能訓練計画書のスケジュール管理
- ・ 機能訓練計画書の作成
- ・ 日々の機能訓練記録

看護・介護部門

- ・ バイタル管理（血圧、体温、水分、体重。尿便管理・・・）
- ・ 看護介護記録、医療記録
- ・ 24時間シート
- ・ 日誌・入退所管理・受診管理
- ・ PEG・インシュリン管理
- ・ 薬の管理
- ・ 爪、掃除、リネン、車いす点検、更衣、寝具交感
- ・ 看護添書
- ・ 入所者個人記録
- ・ 入所者統計

7

4

記録の目的

(2) 事故報告やヒヤリハット、苦情などの記録とデータの分析



日々、各ユニット等で入力する事故報告書や「ヒヤリハット」の記載項目をデータとして分析し、事故防止に役立てている。

苦情やご意見も共有化し再発防止に努める。

記録の目的

(3) 一人ひとりに応じた個別性を文章化

おむつの種類

食札

飲み物などその方の好み

など



記録の目的

(4) その他、業務分担や委員会活動、
行事等に関わる記録



スタッフ内伝達ー申し送りノート
共有フォルダーの活用

記録の目的

2 日常生活の記録



24時間シートの活用
ケアプランの実施状況

※これだけで十分日常生活の実施記録と
言えるのではないか。

24時間シートを集約すると
ユニット内の全員の生活が見える

➡ スタッフのシフトを調整する

お一人おひとりの生活リズムは異なるため、
可能な限りスタッフが合わせる

12

介護職員のモチベーションアップ

介護の仕事に対する
ネガティブな感覚を変革したい！

- 新人教育
- リーダー⇒主任⇒係長などキャリアアップ
- 人事考課
年3回 昇給時、夏・冬賞与時
自己評価・上司評価後、全員に施設長が直接面談
- 資格取得への支援・表彰制度（給料に反映）
- 働き続けられる環境づくり：腰痛予防等

13

7